

(公印省略)

29 農林試第 3702 号
29 平成 29 年 10 月 2 日

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 29 年度病虫害発生予察特殊報第 3 号について

このことについて、本県でカキの黒星落葉病の発生を確認しましたので、病虫害発生予察特殊報第 3 号を発表し、送付します。

特殊報第 3 号

1. 病虫害名 カキ黒星落葉病
2. 学 名 *Adisciso kaki* Kaz. Tanaka, J. Yamamoto & Toy. Sato
3. 発生作物 カキ

4. 発生の経過と概要

平成 29 年 6 月上旬、県内のカキ園（品種：「刀根早生」）で葉に黒色の斑点が生じ落葉する症状が発生した。当試験場で褐変部から分離した菌は、菌叢の色が灰白色で、培地上で子のう殻を形成した。子のうは大きさ $60\sim 70\mu\text{m}\times 12\sim 16\mu\text{m}$ の棍棒状で中に 8 個の胞子を内蔵し、子のう胞子は大きさ $18\mu\text{m}\sim 20\mu\text{m}\times 7\mu\text{m}$ 無色 2 細胞、中央隔壁部でくびれた楕円形であった（図 1、2）。これらの特徴から分離した菌を *Adisciso kaki* であると同定し、本県未発生のカキ黒星落葉病であると判断した。

発病が確認された品種は本県では渋柿の「刀根早生」のみである。既報の島根県では「西条」で発病が確認されており、また、「富有」については、接種により感染することが明らかとなっている。

5. 国内での発生状況

本病害は、*Discostroma* sp.として平成 21 年（2009 年）に島根県での発生が報告（平成 24 年（2012 年）に *A. kaki* と再同定）されている。

6. 症状

- (1) 発病部位は、葉とへたである。
- (2) 病斑ははじめ黒色の小斑点で、徐々に拡大し $1\sim 6\text{mm}$ の斑点となる。病斑の縁は、丸

星落葉病や角斑落葉病と比べ明瞭な黒色で黒星病と類似している(図3)。病斑周辺は、不明瞭な黄色から黄緑色のハローを伴う。葉裏から観察すると病斑に接する葉脈間の黒変が認められる。

- (3) 落葉は発病初期から認められ、病斑数が増加すると葉全体が黄化、紅葉し落葉する。
- (4) 病斑が大きい場合は、葉1枚に1、2個でも落葉する。
- (5) 病斑中央部に小さな黒粒(子のう殻)を形成する。

7. 発生時期と病原菌の特徴

- (1) 発生時期は、丸星落葉病や角斑落葉病より早い6月上旬頃である。
- (2) 病原菌の生育適温は約20℃とやや低く、30℃以上では生育が著しく劣る。このため、通常盛夏になると病勢は低下するが、冷夏の年は多発する。
- (3) 病原菌の伝染源は不明であるが、落葉や樹上で越冬すると考えられている。
- (4) 感染から発病までに要する期間は、1週間程度と考えられている。

8. 防除対策

- (1) 平成29年9月25日現在、本病に対する登録農薬は、トップジンM水和剤、フロンスайдSCである(表1)。
- (2) 病原菌は落葉や樹上で越冬すると考えられているため、多発園では薬剤処理と併せて罹病落葉を処理すると効果的と考えられる。

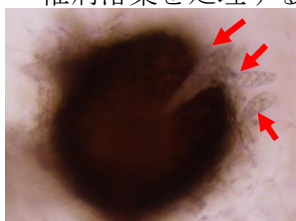


図1 子のう殻と子のう
(矢印: 子のう)



図2 子のう胞子

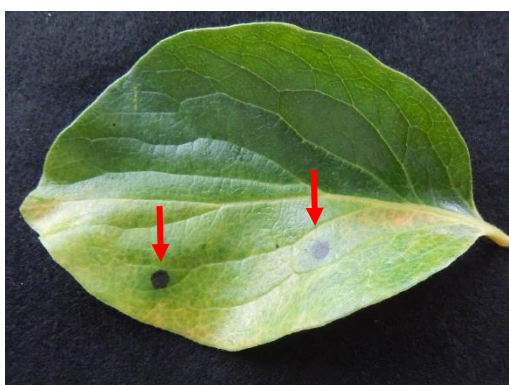


図3 黒星落葉病の発病葉(矢印: 病斑)

<類似病害との違い>

- ・中心部と縁の色は黒
(丸星落葉病、角斑落葉病の中心部は赤褐色)
- ・縁は明瞭
(丸星落葉病は不明瞭な黒、角斑点落葉病は葉脈で囲まれる)
- ・葉脈状に病斑があっても葉は波打たない
(黒星病は、葉脈上に発生すると葉が波打つ)

表1 カキ黒星落葉病に適用のある薬剤

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
トップジンM水和剤	1000~1500倍	収穫前日まで	6回以内
フロンスайдSC	2000倍	収穫45日前まで	1回

使用にあたっては、必ず最新の登録状況を確認するとともに安全・適正使用、飛散防止を徹底すること。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



最新の病害虫発生状況